

3 安心して子育てができ、子どもたちが いきいきと学べるまちづくり



(1) 子育て層への支援

【現状・課題】

- ・浪速区は転出入率が高く、とりわけ子育て層の住民流動性が高い傾向にあります。15 歳未満の人口は、大阪市 24 区の中で最も少ないものの、外国籍の 15 歳未満人口は急速に増加しています。
さらに、ひとり親世帯率も高く、令和 2 年の国勢調査時点では大阪市平均よりも高くなっています。
- ・すべての子育て世代が孤立を感じることなく、安心して子どもを産み育てられるよう、様々な保育ニーズや支援ニーズに個々に対応した相談や情報提供を妊娠期から切れ目なく充実させるとともに、身近な地域での子育てを支援する活動を促進する必要があります。
- ・浪速区は他区と比較して経済的に厳しい家庭が多い状況にあり、こうした環境が子どもたちの将来に影響を及ぼし、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう支援を必要とする世帯を早期に発見し必要な支援につなげていく必要があります。
- ・コロナ禍において、令和 2 (2020) 年度の児童虐待相談件数は前年度から大きく増加するとともに、相談の種別では身体的虐待が半数を超え、内訳が大きく変化しています。重篤な虐待事案につながることはないよう早期発見と、関係機関との連携による支援など取組を進めることが今後より一層求められています。

【めざす状態】

身近な地域で、安心して子どもを「産み」「育て」、将来も住み続けたいと思っている状態

【施策展開の方向性】

➤ 相談支援体制の充実

区役所に心理相談などの専門相談員を配置するとともに、子育て拠点施設や保育施設などでの出張相談を実施するなど、多様な相談ニーズに対応できる体制と相談しやすい環境整備に努めます。

➤ 関係機関との連携強化

困りごとを抱えたまま誰にも相談できずに孤立し埋没する子育て層を掘り起こし、早期に支援につなげるため、学校園や保育施設等との連携を強化し、積極的なアウトリーチに取り組みます。

➤ 交流機会の創出

子ども同士や保護者同士がつながりあえる交流の場として、「子ども・子育てプラザ」などの拠点事業に加え、より身近で気軽に集える地域の「子育てサロン」の活性化に取り組みます。

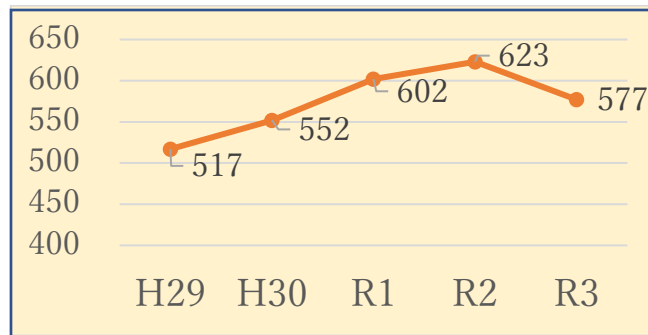
➤ 適切な情報発信

育児への不安や困りごと等の早期解消に向け、区広報紙、区ホームページ、SNS、LINE 等を活用した子育て情報の発信とともに、日本語の理解が困難な外国人住民に対して的確に情報が届くよう多言語による情報発信や関係機関と連携した情報提供に取り組みます。

＜アウトカム指標（成果目標）＞

- ◆「重大な児童虐待ゼロ」 ➡ 令和 7 (2025) 年度まで維持 ※令和 2 (2020) 年度：0（ゼロ）
- ◆子育て層に対するアンケート調査で、「子育てについて気軽に相談できる人や場所がある」と回答した人の割合 ➡ 令和 7 (2025) 年度までに 100% ※令和 3 (2021) 年度：97.2%

* 浪速区における外国人人口（15歳未満）の推移（「住民基本台帳」各年3月末日現在）（人）



* ひとり親世帯比率（令和2年国勢調査より算出）

	母子世帯数 (世帯)	父子世帯数 (世帯)	ひとり親 世帯数計 (世帯)	家族世帯数 (世帯)	ひとり親家庭 世帯率 (%)
大阪市	108,511	15,960	124,471	617,938	20.1
浪速区	2,300	319	2,619	11,470	22.8

* 平成28年度「大阪市子どもの生活に関する実態調査」より

子育て中の保護者への質問	浪速区	大阪市
心配事や悩みを親身になって聞いてくれる人がいない	10.2%	6.4%
子どもの関りについて、適切な助言をしてくれる人がいない	14.2%	8.9%

* 浪速区の児童虐待相談件数の内訳（令和元年度・令和2年度比較）

	件数	身体的虐待	ネグレクト	心理的虐待	性的虐待
令和2年度	54件	54%	24%	20%	2%
令和元年度	37件	11%	62%	27%	0%

* 浪速区内の子育て支援施設等



< 子ども・子育てプラザなどの拠点施設（4カ所） >



< 地域子育てサロン（7カ所） >

3 安心して子育てができ、子どもたちが いきいきと学べるまちづくり



(2) 子どもの学びと健やかな成長の支援

【現状・課題】

- ・子どもたちが心豊かに力強く生き抜く力を備え、持続可能な社会の創造の担い手として成長するためには自尊感情や規範意識を培い、確かな学力と体力を身につける必要があります。
- ・「全国学力・学習状況調査」の結果では、大阪市の小中学校ともに全国平均に比べて低く、浪速区においても同様の状況にあります。浪速区は、他区と比較して経済的に厳しい家庭が多い状況がありますが、「大阪市子どもの生活に関する実態調査（平成 28 年度）」の結果からは、世帯の生活困窮度が高くなるにつれ、子どもの勉強時間や読書時間が短く、遅刻をしない割合や学習理解度も低くなることがわかっています。
- ・また、浪速区では外国につながりをもつ住民が多く在住しており、日本語の指導が必要な児童生徒の数も本市平均と比較して多い状況にあります。
- ・経済状況や家庭環境などに左右されることなく、自分の可能性が追求できるよう子どもたちの学びと健やかな成長を支援していく必要があります。

【めざす状態】

全ての子どもたちが学力を身に付けながら明るく健やかに成長している状態

【施策展開の方向性】

➤ 子どもの学び

- ・保護者・区民等が参画する会議、教育行政連絡会などで意見を把握し、ニーズに応じた教育施策・学校支援に取り組みます。
- ・基礎学力・体力の向上に向け、子どもの学びを支える学校教育環境の充実支援に取り組みます。

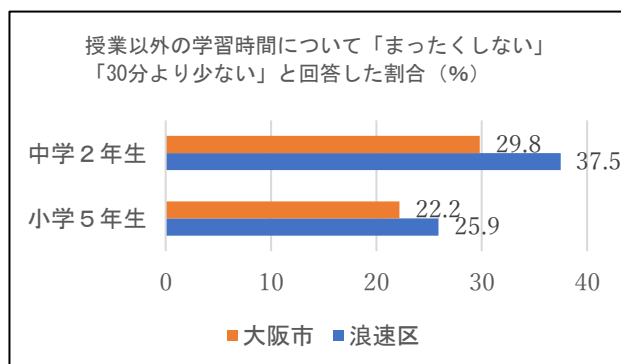
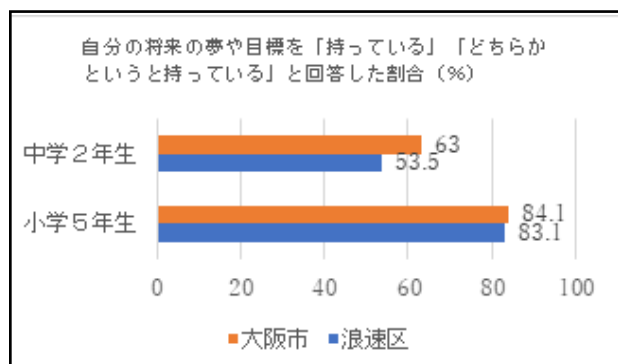
➤ 青少年の健全育成

青少年関係団体と連携し、次世代を担う青少年の健全育成に向けた取組を進めます。

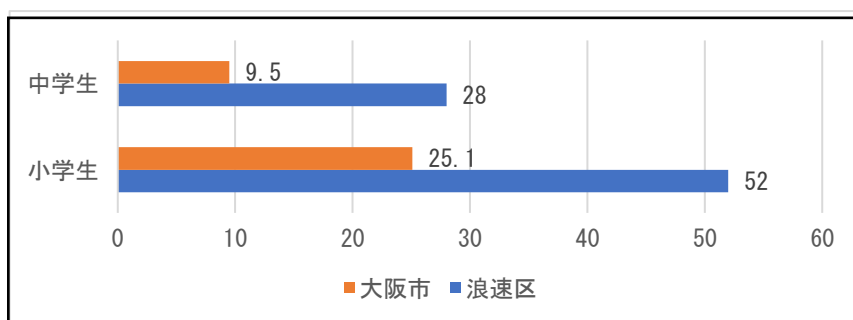
<アウトカム指標（成果目標）>

- ◆区が、学校・地域の実情に応じた学校教育支援を行っていると感じている学校、学校協議会委員等の割合
➡ 令和 7 (2025) 年度までに 90% 以上（現状値なし）
- ◆「全国学力・学習状況調査」における 1 つ以上の教科において、平均正答率が大阪市平均を上回った学校の割合
➡ 令和 7 (2025) 年度までに 50% 以上 ※令和 3 年度：22.2%（参考：9 校中 2 校）

＊「平成 28 年度 大阪市子どもの生活に関する実態調査」より



＊日本語の指導が必要な児童生徒の状況（令和 2 年度）（人）



＊「令和 3 年度 全国学力・学習状況調査 大阪市の結果」より

	令和元年度			令和 3 年度		
	大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比
小学校 国語	58	63.8	0.91	63	64.7	0.97
小学校 算数	65	66.6	0.98	69	70.2	0.98
中学校 国語	70	72.8	0.96	61	64.6	0.94
中学校 数学	57	59.8	0.95	55	57.2	0.96

※全国の平均正答率を 1 としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表している。



＜中学生の学力向上支援事業＞



＜日本語サポーターの派遣＞